公明党 市川陽子（いちかわようこ） 議員

防災について

問 防災における災害対応力の強化について伺います。

答 市長　私と銚子気象台長の間にホットラインが構築されており、消防防災課から銚子気象台の気象防災監や土砂災害気象官へ直通の電話連絡が可能となっています。

問 本市が銚子気象台と連携されていることから、職員の防災力向上のため、気象防災アドバイザーを活用した研修を行ってはどうですか。

答 総務部長　職員および市民の方々においても、気象情報の活用方法について理解を深めるための一つの方法として、研修の実施について検討したいと思います。

コロナ禍における女性負担の軽減について

問 パートやアルバイトとして働く女性のうち、勤務シフトが5割以上減り、休業手当を受けていない実質的失業者が、推計103万人との分析もありますが、市長の見解を伺います。

答 市長　本市においても、生活就労に関する新規相談件数が増加していることから、庁内関係部署のほか、社会福祉協議会等の外部機関とも連携しながら、国からの交付金を活用し、相談体制の強化を図っています。

問 コロナ禍における、いわゆる「生理の貧困」を解消するため、備蓄倉庫から備蓄品入替により回収した生理用品等があれば利活用できるものと考えますがどうですか。

答 総務部長　市では、防災備蓄倉庫を25か所設置しており、平成27年度から生理用品の備蓄を開始しています。使用期限等を考慮し、今年5月に生理用品の備蓄品入替を行い、約2000枚配布できるよう集積しています。

なお、配布に向けて、配布対象者や配布方法等について、社会福祉課やこども教育課等と現在協議中です。

問 経済的な理由で購入できないだけではなく、保護者のネグレクトにより、生理用品を買ってもらえない子ども達がいるとの指摘もあります。今後、小中学校等の個室トイレに生理用品の配備を行う考えはないか伺います。

答 教育部長　児童生徒は、発達段階がさまざまです。個室トイレに置くよりも、保健室に常備し、必要に応じて提供する体制を整えてあります。

答 教育長　学校としては、なぜそういう状況になっているのか、まずは把握する必要もあります。そのため、今後も保健室に常備し、気兼ねなく誰でも受け取れるということをしっかり周知していきたいと考えます。

行政手続きについて

問 押印廃止の取組について伺います。

答 市長　各種行政手続における市民の負担を軽減し、利便性向上につなげていくことを目的として、今後の行政手続のオンライン化を見据えたうえで、どうしても押印を残さなければならない手続を除いて、速やかに押印の義務づけを廃止していく考えです。

問 押印廃止に向けた取組状況およびスケジュールについて伺います。

答 総務部長　昨年10月に押印を求めている文書の実態調査を行った結果、約1000種類の文書のうち、約6割が押印廃止可能と判断しています。

先般、本市でも押印等見直し方針を定め、押印の根拠規定等の精査をしたうえで9月1日を目途に、一斉に押印を廃止する予定です。

また、条例改正が必要なものは、9月定例会で、押印廃止に関する関係議案を提出する予定です。

成東駅周辺の利便性について

問 成東駅南口線と国道126号が交差する津辺交差点とすぎのや脇の交差点の整備計画および進捗状況について、それぞれ伺います。

答 建設環境部長　千葉県山武土木事務所に確認したところ、2つの交差点ともに、国道に右折レーンを設置し、道路両側へ歩道を整備する計画であり、早期改良に向けて千葉県警交通規制課と協議中であると聞いています。

問 工事スケジュールについて伺います。

答 建設環境部長　県から全体的な工事スケジュールは示されていませんが、ご質問の国道の区間では、まず交差点改良に着手し、その後に歩道整備を実施する予定であると聞いています。

問 早期完成に向けて、県へ強く要望すべきと考えますが、市長の見解を伺います。

答 市長　駅周辺の国道126号の整備については、まちづくりには必要不可欠な事業でありますので、さらに事業進捗を図っていただけるよう、早期完成に向けて、県へ要望を行っていきます。